
中国語自然会話における「D群」の感動詞類の統語的關係について

A Study on the Syntactic Relation of the Interjections of " group D " in the Chinese Natural Conversation

劉 伝霞*

LIU Chuanxia*

(摘要)

拙著(劉伝霞 2021a)で、二連鎖感動詞類の時系列には、「アクセス(A群)→真偽の検討(B群)→真偽判断の保留(C群)→真偽判断の確定(D群)」という統語的順序が決まっていると提案した。そこでは、各群の統語的順序を明らかにしたが、各群に属する感動詞類の統語的順序については言及していない。しかし、中国語自然会話に現れる二連鎖感動詞類は、異なる群の感動詞類の中の、いずれか2つからなることだけでなく、同じ群の感動詞類の中の2つからなる場合もある。そこで、本稿では、真偽判断の確定を行うD群の感動詞類の「嗯」(うん)、「对」(そー)、「是」(はい)の中の、いずれか2つからなる二連鎖感動詞類を対象として、それらの統語的順序について試行的な考察を行った。その結果から、本稿では、真偽判断の確定を行うD群の感動詞類からなる二連鎖感動詞類の時系列には、「「嗯」(うん)→「对」(そー)→「是」(はい)」という統語的順序が仮定できると提案した。

キーワード: 中国語自然会話, 真偽判断の確定, 感動詞類(D群), 統語的關係

(Abstract)

In my paper (LIU Chuanxia 2021a), I proposed that the time series of two-chain interjections has a syntactic relation. That was "access (group A) → consideration the true-false (group B) → reservation the true-false judgment (group C) → establish the true-false judgment (group D)". In that paper, I clarified the syntactic relation of each group, but I did not mention the syntactic relation of the interjections belonging to each group. However, the two-chain interjections that appear in Chinese natural conversation not only consist of any two of the different groups of interjections, but also sometimes consist of two of the same group of interjections. Therefore, in this paper, we examine the syntactic relation of the two-chain interjections consisting of any two of the group D interjections "嗯" (yeah), "对" (yep), and "是" (yes). As a result, this paper proposed that the time series of two-chain interjections (consisting of two of the group D) has a syntactic relation. That was "嗯" (yeah) → "对" (yep) → "是" (yes)".

Keywords: Chinese natural conversation, Establish the true-false judgment, Interjections of " group D ", Syntactic relation

1. はじめに

中国語自然会話を観察すると、真偽判断の確定を行うD群の感動詞類の「嗯」(うん)、「对」(そー)、「是」

(はい)の中の、いずれかの2つからなる二連鎖感動詞類が現れる¹。

例えば、次の例を見られたい²。

* 山口大学大学院東アジア研究科 東アジアコラボ研究推進体特別研究員

Journal of East Asian Identities Vol. 07 March 2022 (pp. 37-44)

(1)

0031©F01 : 她们就是特别注意防晒

彼女たちは本当に日焼けに注意してるね

0032©F02 : 嗯, 对

{en, dui}

うん, そー

(2)

0283©F03 : 他们对, 那二代人对这个「国名 1 的旧称」什么很有好感的

彼らは、彼らの時代は「国名 1 の旧称」に好感を持ってるね

0284©F04 : 对, 是

{dui, shi}

くそー, はい

(1)では、二連鎖感動詞類の「嗯, 对」(うん, そー)の前項で「嗯」(うん)が発話されており、後項で「对」(そー)が発話されている。(2)では、二連鎖感動詞類の「对, 是」(そー, はい)の前項で「对」(そー)が発話されており、後項で「是」(はい)が発話されている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題に対して、肯定の真偽判断を下しているD群同士である。また、これらの順序も決まっていて、筆者のデータには、「对, 嗯」(そー, うん)、「是, 对」(はい, そー)という順序のものは現れていない。このことから考えると、D群の感動詞類には、このような感動詞類の統語的關係(Syntactic Relation)を決定付ける何らかのルールが存在しているようである。

本稿の目的は、D群の感動詞類の「嗯」(うん)、「对」(そー)、「是」(はい)の中の、いずれか2つからなる二連鎖感動詞類を対象とし、それがモニターしている認知プロセスを考察するとともに、それらの統語的關係を解明することにある。

2. 先行研究と本稿の立場

本章では、中国語の感動詞類の定義と、「嗯」(うん)、「对」(そー)、「是」(はい)に言及した先行研究を見てみる。

中国語に関する従来の研究では、感動詞類は、「嘆詞」(cf. 鹿琮世・藤山和子 1988)、「感嘆詞」(cf. 劉月華 1992, 李丛禾 2007)などと呼ばれている。

中国語の感動詞類は、高い独立性を持っている特殊な品詞の1つとして認識されているが、研究者によっ

て定義が異なり、その性質はまだ明らかになっていない。そして、感動詞類の意味論・語用論といった理論的な研究が多いが、談話的、認知的な研究は断片的で、まだまだ進んでいない。

劉伝霞(2021a:18)では、田窪行則(1994, 1995, 2005)の考え方に基づいて、「感動詞類」を「自然会話における発話者の心的な認知プロセスをモニターする標識である」というように定義している。また、2つの異なる形式の感動詞類が連続している場合、「二連鎖感動詞類」と呼んでおり、「二連鎖感動詞類とは、自然会話における発話者の一連の心的な認知プロセスをモニターする標識の組み合わせである」と定義している。

劉伝霞(2021a)において、二連鎖感動詞類に、それぞれの感動詞類がどのような心的操作をモニターしているか、二連鎖になることによって、どのような順序付けがあり、どのような認知プロセスが流れているかという問題について論じている。その結果としては、認知プロセスを以下のように分類している。

- ①「A群」(「啊」(あ)、「哦」(あ)、「欸」(えっ)など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対するアクセスを行う。
- ②「B群」(「哦ー」(あー)、「啊ー」(あー)、「嗯ー」(うーん)など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽の検討を行う。
- ③「C群」(「也对」(まー)、「也是」(まー)、「也行」(まー)など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の保留を行う。
- ④「D群」(「对」(そー)、「嗯」(うん)、「嗯ー」[↑↓] (うんー [↑↓])、「啊ー」[↓] (あー [↓])、「是」(そー)など)：発話時に、発話者が先行発話を参照し、その命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

(cf. 劉伝霞 2021a:183)

そして、劉伝霞(2021a)では、D群の直後に現れる感動詞類ではない要素でも、真偽判断の確定という機能を担う場合、以下のように「D群」を仮定している。

「D'群」: 1 ターンの中で、二連鎖感動詞類の直後に感動詞類以外の要素がある場合、その発話時に、発話者が命題内容に対する真偽判断の確定を行う。

具体的には、以下のようなものが見られる。

- a. 副詞: 「確かに」、「本当に」
- b. 動詞: 「分かる」
- c. 同語重複: 先行発話 (あるいはその一部) を重複する発話
(cf. 劉伝霞 2021a:143)

さらに、劉伝霞(2021a)では、時系列には、二連鎖感動詞類 (と前項発話・後続発話) は単純に並んでいるわけではなく、少なくとも「アクセス (A群) →真偽の検討 (B群) →真偽判断の保留 (C群) →真偽判断の確定 (D群) →真偽判断の確定 (D'群)」という統語的順序が決まっていると提案している。そして、このような一連の認知プロセスの集合体を「認知ユニット」と捉え、様々な認知ユニットの中の1つとして、「真偽判断に関する認知ユニット」(記号【 】で括弧で示す) があると仮定している。

以上のように、劉伝霞(2021a)は、各群の統語的順序を明らかにしたが、各群に属する感動詞類の統語的順序については言及していない。

一方、黄麗華(2002)は、中国語の肯定応答表現の意味分析を行っており、以下のように述べている。

- “嗯” : いったん間において、話し手内部で情報調整をおこなっている。
- “对” : 相手の発言内容や動作内容に対して、「それは正解である」と評価する。
- “对了” : 正解となる命題や動作が文脈に登場したことを受けて、「それ(これ)が正解だ」と述べる。
- “是” : 相手がいったことに対して同調する。
- “是的” : 現実世界の実情に対して同調する。

(cf. 黄麗華 2002:60)

黄麗華(2002)では、「嗯」(うん)、「对」(そー)、「是」(はい)の相違点を指摘しているが、それらの中には統語的順序があるのかどうかについては言及していない。

以上を踏まえ、本稿では、真偽判断の確定を行うD群に属する感動詞類の「嗯」(うん)、「对」(そー)、「是」(はい)を取り扱い、それらの共通点・相違点を考察するとともに、それらの統語的順序を解明する³。

3. 研究方法

本稿では、劉伝霞(2021a)の方法論(談話分析)と言語データを用い、「嗯」(うん)、「对」(そー)、「是」(はい)の統語的関係を解明する。

本稿で扱う言語データは、劉伝霞(2021a)で用いたデータIVで、これは、筆者が2019年~2020年の間に収集したものである。

このデータIVは、中国語母語話者の二者間の自然会話である。調査は中国語母語話者合計18名を対象に行い、2人ずつに分かれ、10本(合計、約300分間)のデータを収集した。発話者は全員19歳~20代の学生同士で、親しい友人関係にある。また、発話者は調査当時全員、筆者の周辺にいた在日中国人留学生であり、日本語上級学習者である。

また、発話者の出身地はほとんどが中国の人口密度が高い地方(山東省5名、河南省3名、安徽省2名、内モンゴル自治区、遼寧省、北京市、山西省、湖北省、重慶市、四川省、雲南省各1名)であるが、本稿では、発話者の地域差や方言の干渉などについて、性別とともに分析対象とはしない。第二言語(日本語)が母語(中国語)に与える影響は当然考えられるが(cf. 黄郁蕾・玉岡賀津雄 2015)、本稿では考慮しない。

表1に「データIV」の概要を挙げる。

表1にデータIVのデータ番号、発話者記号、(会話)時間数を示す。表中の発話者記号の「©F」は「中国語母語話者 女性 (Chinese Female)」, 「©M」は「中国語母語話者 男性 (Chinese Male)」の省略であり、発話者の属性を表す。「©F01」, 「©F02」は発話者記号である。

また、データIVの書き起こしには、表2のような記号を用いる。

そして、本稿では、会話データの表記については、表3に従う。

表 1 「データⅣ」の概要

データ番号	発話者記号	時間数	データ番号	発話者記号	時間数
IV-01	◎F01-◎F02	0時28分20秒	IV-06	◎F11-◎F12	0時27分03秒
IV-02	◎F03-◎F04	0時30分00秒	IV-07	◎M13-◎M14	0時30分00秒
IV-03	◎F05-◎F06	0時26分52秒	IV-08	◎M14-◎F15	0時30分00秒
IV-04	◎F07-◎F08	0時27分27秒	IV-09	◎M16-◎M17	0時28分00秒
IV-05	◎F09-◎F10	0時30分04秒	IV-10	◎M17-◎F18	0時30分00秒

表 2 「データⅣ」の記号凡例

,	ごく短いポーズ
—/—	日本語の表記では、「—」は音声伸ばしていることを表している。中国語の表記では、「一」は音声伸ばしていることを表している。いずれも音声の長さは最短でも1秒である。
< >	同時発話されたものは、重なった部分双方を< >で括る。
()	相手の発話の間、相手の発話と同時のあいづちなどを()で括る。
[↑][↓]	感動詞類のイントネーション(上昇調、下降調)を表す。
[]	その発話がなされた状況ができるだけわかりやすくなるように、笑い、あくび、咳、舌打ちなどをするとときに、[笑]、[咳]、[舌]などと表記する。
「 」	固有名詞等、発話者のプライバシーの保護のために明記できない人名、国家名、地域名などを表すときに用いる。また、各データでの出現順による通し番号を付ける(例えば、「国名1」、「人名2」、「地名1」など)。

(宇佐美まゆみ(2015:16-17)を参考に筆者作成)

表 3 会話データの表記

太 字	考察対象である二連鎖感動詞類を示す。
横 線	二連鎖感動詞類の後続発話を示す。
波 線	命題部分を示す。

表 4 考察対象である二連鎖感動詞類の一覧

データ	発話者記号	中国語発話	日本語訳	出現回数	分類
(3)	◎F02	嗯, 对	うん, そー	2	「嗯, ~」類
(4)					
(5)	◎M13	嗯, 对	うん, そー	1	
(6)	◎F04	嗯, 对对	うん, そーそー	1	「对, ~」類
(7)	◎F04	对, 是	そー, はー	1	

4. 分析

まず、分析に入る前に、10本のデータにおける「嗯」(うん)、「对」(そー)、「是」(はい)の中の、いずれか2つからなる二連鎖感動詞類の出現状況を表4に示す。

本章では、表4の二連鎖感動詞類において、どのような感動詞類が、どういう統語的關係になっているかについて観察していく。なお、二連鎖感動詞類の前項に同じ感動詞類がくる場合、全体的には1つのまとまりとして、「～、～」類とする。ここでは、「嗯、～」(うん、～)類、「对、～」(そー、～)類の2種類がある。

4.1 「嗯、～」(うん、～)類

ここでは、二連鎖感動詞類の前項に「嗯」(うん)がくるものを扱う。データには、「嗯、对」(うん、そー)、「嗯、对对」(うん、そーそー)が現れている。

まず、「嗯、对」(うん、そー)について考察する。(3)の言語データを見られたい。

(3)

0217◎F01: 嗯, [笑] ([笑]), 一天一上午就那么过去了, 你再午睡一会, <真的就过去了>
うん, [笑] ([笑]), 朝が過ぎちゃって, 昼寝して, <本当に過ぎちゃった>

0218◎F02: **「嗯, 对」**

{en, dui}
うん, そー

0219◎F01: 别说来学校了, 你家门都不出一步的
学校に行くのはなおさら, 部屋から一歩も離れない

(3)では、「嗯」(うん)と「对」(そー)からなる1ターンの二連鎖感動詞類とが現れている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題「一天一上午就那么过去了, 你再午睡一会, 真的就过去了」(朝が過ぎちゃって, 昼寝して, 本当に過ぎちゃった)に対して, 肯定の真偽判断を下しているD群同士である。即ち, 「嗯, 对」(うん, そー)は【D群, D群】と表記できる。

次に, (4)を見られたい。

(4)

0031◎F01: 她们就是特别注意防晒
彼女たちは本当に日焼けに注意してるね

0032◎F02: **「嗯, 对」**

{en, dui}
うん, そー

0033◎F01: 说是防晒, 紫外线容易让人变得衰老
なんか日焼け止め, 紫外線は人を老化させるね

(4)では, 「嗯」(うん)と「对」(そー)からなる1ターンの二連鎖感動詞類とが現れている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題「她们就是特别注意防晒」(彼女たちは本当に日焼けに注意してる)に対して, 肯定の真偽判断を下しているD群同士である。即ち, 「嗯, 对」(うん, そー)は【D群, D群】と表記できる。

次に, (5)を見られたい。

(5)

0148◎M13: 比如说那个我看了一下他扫地机器人嘛对
不对(嗯), 不能超过多少, 1万1万多就不能买

例えばそのロボット掃除機みたいだね(うん), 上限はどのぐらいだろう, 1万もしくはは1万以上なら買えないね

0149◎M14: 1万多?, 电量?

1万以上?, 電量?

0150◎M13: **「嗯, 对」**, 电量, 因为它有电池的嘛, 你必须, 而且不能托运嘛, 肯定得随身就要过安检那样过

{en, dui}

うん, そー, 電量, バッテリーがあるから, 絶対, しかも預け入れできないね, 手荷物にすると検査する必要だし

(5)では, 0150◎M13のターン初頭に二連鎖感動詞「嗯, 对」(うん, そー)が現れている。ここでは, 「嗯」(うん), 「对」(そー)の発話時点で, 発話者◎M13が0149◎M14の命題「电量」(電量)に対して真偽判断の確定を繰り返している。また, 発話者◎M13が, 後続発話の「电量」(電量)という発話によって, 0149◎M14の「电量?」(電量?)という質問に対する肯定的な応答を行っている。つまり, 0150◎M13が

「电量」(電量)の発話時に、0149©M14の命題に対して真偽判断の確定を行っていると考えられる。このような意味で、「电量」(電量)は先行発話の同語重複である。

即ち、「嗯，对，电量」(うん，そー，電量)は【D群，D群，D'群(同語重複)】と表記できる。

次に、「嗯，对对」(うん，そーそー)について考察する。(6)を見られたい。

(6)

0063©F03 : <它并没有>，并没有这个化学，那种化学酒精<不是那样的>

<特にない>，化学的なものは特にない，化学的なアルコール<じゃないよ>

0064©F04 : **嗯，<对对>**

{en, dui dui}

うん，<そーそー>

0065©F03 : 所以<我觉得喝那种果实酒>，挺好的
だから<その果实酒を飲むのが>，めっちゃいいじゃん

(6)では、「嗯」(うん)と「对」の反復形「对对」(そーそー)からなる二連鎖感動詞類が現れている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題「它并没有，并没有这个化学，那种化学酒精不是那样的」(特にない，化学的なものは特にない，化学的なアルコールじゃない)に対して，肯定の真偽判断を下しているD群同士である。即ち、「嗯，对对」(うん，そーそー)は【D群，D群】と表記できる。

(3)~(6)より、「嗯」(うん)が「对」(そー)，「对对」(そーそー)より先に現れている。

4.2 「对，~」(そー，~)類

ここでは，二連鎖感動詞類の前項に「对」(そー)がくるものを扱う。データには，「对，是」(そー，はい)しか現れていない。(7)の言語データを見られたい。

(7)

0283©F03 : 他们对，那一代人对这个「国名1的旧称」
什么很有好感的

彼らは，彼らの時代は「国名1の旧称」に好感を持っているね

0284©F04 : **<对，是>**

{dui, shi}

<そー，はい>

0285©F03 : <「国名2」>跟「国名1的旧称」很亲近
<「国名2」>と「国名1の旧称」は仲がいいよね

(7)では，前項で「对」(そー)が発話されており，後項で「是」(はい)が発話されている。二連鎖感動詞類の前項と後項はいずれも先行発話の命題「他们对，那一代人对这个「国名1的旧称」什么很有好感的」(彼らは，彼らの時代は「国名1の旧称」に好感を持っている)に対して，肯定の真偽判断を下しているD群同士である。即ち，「对，是」(そー，はい)は【D群，D群】と表記できる。

(7)より，「对」(そー)が，「是」(はい)より先に現れている。

4.3 統語的順序

4.1~4.2で扱った二連鎖感動詞類の統語的順序を表5に示す。

表5 感動詞類の統語的順序

嗯	对	是
	对对	
	对	

前項
➔
後項

表5を見ると分かるように，「嗯」(うん)が，「对」(そー)，「对对」(そーそー)より先に現れている。「对」(そー)が，「是」(はい)よりも先に現れている。従って，二連鎖感動詞類の時系列には，真偽判断を行うD群の「嗯」(うん)，「对」(そー)，「是」(はい)は，単純に並んでいるわけではなく，少なくとも「「嗯」(うん)→「对」(そー)→「是」(はい)」という統語的順序が決まっている。

また，二連鎖感動詞類の後項で，「对」(そー)の反復形「对对」(そーそー)が見られることにより，後項のほうが前項より，肯定の強さが高いであろう。つまり，感動詞類の反復形により，真偽判断の確定の度合いが高くなり，それが後項に現れやすいではないかと考えられる。

5. まとめ

本稿では，中国語の自然会話を対象に，真偽判断を行うD群の「嗯」(うん)，「对」(そー)，「是」(はい)

の統語的順序について考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

- ①真偽判断の確定を行う D 群の感動詞類の「嗯」（うん）は、「对」（そー）、「对对」（そーそー）より先に現れている。また、「对」（そー）は、「是」（はい）よりも先に現れている。
- ②D 群からなる二連鎖感動詞類の時系列には、「「嗯」（うん）→「对」（そー）→「是」（はい）」という統語的順序が決まっている。
- ③D 群の感動詞類の反復形により、真偽判断の確定の度合いが高くなり、それが後項に現れやすい。

本稿では、「嗯」（うん）、「对」（そー）、「是」（はい）の統語的順序について試行的な考察を行ったに過ぎない。その結果、以下のような問題点や今後の課題が生じた。

- ①本稿では、調査対象者を在日中国人留学生に限定して調査を行った。感動詞類の実態を探るためには、インフォーマントの地域、性別、年齢、日本語学習歴などの属性の影響、及び話者間の親疎関係、上下関係も留意すべきである。
- ②感動詞類は、本稿で扱った自然会話のような話し言葉に現れるだけではなく、SNS での会話や、小説のような書き言葉にも見られる。今後、多種多様なデータも用いて、感動詞類に関する考察をより深めなければならない。
- ③中国語の D 群の感動詞類の直後に助詞「啊」、「呀」、「了」、「的」がくる場合がある。例えば、「对呀」（そーね）、「对啊」（そーね）、「对了」（そーだ）、「是呀」（そーね）、「是啊」（そーね）、「是的」（そーだ）、「嗯啊」（そーね）がよく見られる。それらも 1 つの感動詞類として捉えられるかどうか、また、助詞が感動詞類に影響を与えるかどうかについては、今後、厳密に分析していきたい。
- ④中国語の感動詞類だけではなく、例えば、日本語の D 群の感動詞類（「うん」、「そー」、「はい」など）にも統語的順序が見られるのであろうかについては、今後の課題とする。
- ⑤D 群の感動詞類だけではなく、A 群、B 群、C 群にも統語的順序が見られるのであろうかといった問題は、今後の課題として研究していきたい。

今後、中国語のデータ、またほかの言語のデータを収集しつつ、様々な角度から綿密に分析し、同群の感動詞類に統語的順序があるという本稿の提案がどこまで汎用性があるか、今後の課題である。

文 献

<日本語文献>（日本語読み、アルファベット順）

- [1] 坊農真弓（2002）「プロソディからみた「うん」と「そう」」定延利之（編）『「うん」と「そう」の言語学』、pp.113-126、ひつじ書房。
- [2] 井上優（2002）「“是吗？”に関する覚え書」定延利之（編）『「うん」と「そう」の言語学』、pp.61-74、ひつじ書房。
- [3] 井上優・黄麗華（2007）「日本語と中国語の真偽疑問文」彭飛（編）『日中対照言語学研究論文集—中国語からみた日本語の特徴日本語から』、pp.35-57、和泉書院。
- [4] 黄郁蕾・玉岡賀津雄（2015）「中国人日本語学習者の助言場面における意識と行動に影響する諸要因」『言語文化と日本語教育』（48・49）、pp.11-21、お茶の水女子大学日本語文化学会。
- [5] 黄麗華（2002）「中国語の肯定応答表現—日本語と比較しながら—」定延利之（編）『「うん」と「そう」の言語学』、pp.47-60、ひつじ書房。
- [6] 奥水優（1985）『中国語の語法の話—中国語文法概論』（中国語研究学習双書 8）、光生館。
- [7] 奥水優・島田亜美（2009）『中国語わかる文法』、大修館書店。
- [8] 串田秀也（2002）「会話中の「うん」と「そう」—話者性の交渉との関わりで—」定延利之（編）『「うん」と「そう」の言語学』、pp.5-46、ひつじ書房。
- [9] 彭飛（編）（2007）『日中対照言語学研究論文集—中国語からみた日本語の特徴日本語からみた中国語の特徴』、和泉書院。
- [10] 劉伝霞（2020a）「BTSJ コーパスにおける二連鎖感動詞類について」『Journal of East Asian Identities』5、pp.1-10、山口大学・淡江大学。
- [11] 劉伝霞（2020b）「中国語談話における二連鎖感動詞類について」『東アジア研究』18、pp.133-149、山口大学大学院東アジア研究科。
- [12] 劉伝霞（2021a）『自然会話における二連鎖感動詞類に関する研究』博士論文、山口大学大学院東アジア研究科。
<http://www.lib.yamaguchi.ac.jp/yunoca/handle/DT13100143>
- [13] 劉伝霞（2021b）「自然会話における二連鎖感動詞類について」『感動詞研究会』発表配布資料、オンライン、2021年6月6日。
- [14] 劉伝霞・有元光彦（出版予定）「日本語会話の二連鎖感動詞類に関する予備的考察」友定賢治（編）『感動詞研究の展開』、ひつじ書房。
- [15] 定延利之（2002）「「うん」と「そう」に意味はあるか」定延利之（編）『「うん」と「そう」の言語学』、pp.75-111、ひつじ書房。
- [16] 定延利之（2005）「「表す」感動詞から「する」感動詞へ」『月刊言語』34（11）、pp.33-39、大修館書店。

- [17] 定延利之 (2010) 「会話においてフィラーを発するということ」『音声研究』14 (3), pp.27-39, 日本音声学会.
- [18] 定延利之 (2015) 「感動詞と内部状態の結びつきの明確化に向けて」友定賢治 (編)『感動詞の言語学』, pp.3-14, ひつじ書房.
- [19] 定延利之 (編) (2002) 『「うん」と「そう」の言語学』, ひつじ書房.
- [20] 定延利之・田窪行則 (1995) 「談話における心的操作モニター機構—心的操作標識「ええと」「あー」—」『言語研究』108, pp.74-93, 日本言語学会.
- [21] 定延利之・張麗娜 (2007) 「日本語・中国語におけるキャラ語尾の観察」彭飛 (編)『日中対照言語学研究論文集—中国語からみた日本語の特徴日本語から』, pp.99-119, 和泉書院.
- [22] 佐藤有希子 (2005) 「日本語母語話者の雑談における「うん」と「そう」—フィラーとして用いられる場合—」『国際開発研究フォーラム』29, pp.107-124, 名古屋大学大学院国際開発研究科.
- [23] 田窪行則 (1994) 「音声対話の言語学のモデル 副題: 談話管理標識としての感動詞の分析」『情報処理学会研究報告: SLP, 音声言語情報処理』94 (40), pp.15-22, 九州大学文学部.
- [24] 田窪行則 (1995) 「音声言語の言語学的モデルをめざして—音声対話管理標識を中心に—」『情報処理』36 (11), pp.1020-1026, 九州大学文学部言語学講座.
- [25] 田窪行則 (2005) 「感動詞の言語学的位置づけ」『月刊言語』34 (11), pp.14-21, 大修館書店.
- [26] 友定賢治 (編) (2015) 『感動詞の言語学』, ひつじ書房.
- [27] 宇佐美まゆみ (2015) 「基本的な文字化の原則 2015 年改訂版」国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」サブ・プロジェクト「日本語学習者の日本語使用の解明」(リーダー: 宇佐美まゆみ).

<中国語文献> (中国語読み, アルファベット順)

- [28] 高彦梅 (2001) 「感叹词如何体现话语基调」外語教学 No.3, pp.14-18.
- [29] 胡琼 (2017) 「20 世纪以来叹词研究综述」鸡西大学学报 No.3, pp.148-153.
- [30] 蒋静 (2013) 「日语和汉语感叹词的认知对比分析」湖南广播电视大学学报 No.2, pp.47-51.
- [31] 李成军 (2005) 《现代汉语感叹句研究》博士論文, 武汉大学.
- [32] 李丛禾 (2007) 「感叹词的认知理据和语用功能探究」外語学刊 No.3, pp.118-122.
- [33] 刘丹青 (2011) 「叹词的本质—代句词」世界外語教学 No.2, pp.147-158.
- [34] 刘月华・潘文娛・胡韦华 (2010) 《实用现代汉语语法》(增订本), 商务印书馆.
- [35] 吕叔湘 (1999) 《现代汉语八百词》(增订本), 商务印书馆.
- [36] 束定芳 (2013) 「认知语言学研究方法、研究现状、目标与内容」西华大学学报 No.3, pp.52-56.
- [37] 严辰松 (2000) 「语言理据探究」解放军外国语学院学报 No.6, pp.1-6.
- [38] 周国光 (2016) 「叹词的语法功能、语义功能及其定位」语言科学 No.3, pp.225-233.
- [39] 赵元任 (1979) 《汉语口语语法》商务印书馆.

1 中国語の感動詞類には、「啊」、「哦」などの感動詞 (cf. 劉月華 1992:188), 「嗯」、「对」などの応答詞 (cf. 黄麗華 2002:47) のようなことが含まれる。そして、「感動詞類」「二連鎖感動詞類」の定義については、第 2 章を参照されたい。

2 本稿では、考察対象の中国語のピンインを記号 { } の中に記す。また、中国語の発話の下には、日本語訳を付ける。日本語訳は、本文中では丸括弧で挙げる場合もあるが、いずれも筆者によるものである。また、データの表記については、第 3 章を参照されたい。

3 劉伝霞(2021a)に言及した真偽判断の確定の D 群の「嗯— [↑ ↓] (うん— [↑ ↓]), 「啊— [↓] (あ— [↓]) は、イントネーションの問題に関わり、より詳細な観察が必要であるため、本稿では、考察対象として取り扱わない。そして、黄麗華(2002)に言及した「对了」(そーだ), 「是的」(そーだ) は、感動詞類の直後に助詞「了」、「的」がくる場合である。それらも 1 つの感動詞類として捉えられるかどうか、また、助詞が感動詞類に影響を与えるかどうかについては、今後、厳密に分析していきたい。本稿では、取り扱わない。

<作者略歴>

劉 伝霞(りゅう でんか)

2015 年曲阜師範大学卒業, 2021 年山口大学大学院東アジア研究科博士課程修了 (博士 (学術)). 現在山口大学大学院東アジア研究科 東アジアコラボ研究推進体特別研究員.